

(様式2)

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591200181		
法人名	有限会社 公衛社		
事業所名	グループホームふるさと(2ユニット共通)		
所在地	新潟県村上市中原3920番地1		
自己評価作成日	令和3年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・事業所名の”ふるさと”とは、大切な人と巡り合った場所であり、事業所に関わる人々が少しでも笑顔になれるように取り組んでいる。</p> <p>・昨年同様コロナ禍であるが、手作業を実施し、小物作ったり、農作業したものを道の駅等に出荷している。昨年より外出する機会が少なかったが、施設内イベントを充実させて、ご利用者には喜んで頂けたように思える。</p> <p>また、認知症普及啓発活動の一環であるラン伴であるが、施設内をオレンジで飾り、市町村の協力も得て、外部へ活動報告をおこなった。</p> <p>・感染対策をおこない、徐々に外食、外泊、コンサートへの参加が出来て、ふつうの生活に近づいてきたので、次年度もさらに外部活動に力をいれていきたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームふるさと」は、学校や保育所、村上市役所朝日支所が近くにある地域に立地している。玄関前付近のスペースを近隣との交流の場として活用し、日常的な地域との付き合いをしている。新型コロナウイルス感染防止対策のため交流の機会が制限される状況ではあるが、移動スーパー「えびす丸」での買い物機会の確保、「都岐沙羅パートナーズセンター」との連携による畑の借用、JAふれあい市「よれっしゃ・こいっチャ」における作品販売、市と連携した認知症の普及啓発活動等の取り組みを行っている。</p> <p>開設時に作成した理念に基づき、利用者の「笑顔」を追及し、利用者の意思を尊重した事業所運営、支援を行っている。管理者は、日々の業務や職員会議の機会を利用して職員の意見や提案を聞き、運営に反映させており、法人代表者と職員との面談の機会も設けたところである。</p> <p>また、事業所では、職員研修を充実させることを目的として研修担当を選任し、事故対策、災害対策、感染対策、虐待(身体拘束廃止)に関して担当職員を配置した。研修会を実施することを通じて職員が業務への理解を深めて支援の力量を向上させることにつながっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、日頃のコミュニケーションから理念を共有している。ケア実践を踏まえ、確認作業をおこなっている。(ケース会議でも理念に沿った支援方法を確認作業を実施)	「笑顔」をキーワードとした理念は、開設時に周囲にわかりやすいように作成したものであり、現在も変わることなく実践につなげている。笑顔が増えることを目指して支援方法の検討等を進めている。事業所内に理念を掲示し、理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスにより今年度の活動は、小学生の登下校の見守り活動、近隣小学校の郊外事業稲刈り体験に参加している。	地域の機関をから畑を借用して野菜を栽培したり、移動スーパー「えびす丸」を利用するなど、地域との日常的な交流に努めている。玄関前のスペースに保育園児が来てくれて利用者と交流することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カフェ活動が休止中であり次年度は開催したい。又、アルツハイマー月間に合わせ、施設内をオレンジ色に飾り、市町村のIPにも掲載して頂いた。当該事業所のFBでも報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自由に外出される利用者の安全確保について情報提供し、対応策を共有している。又、災害対策について、市町村とも連携している。今年度は、新型コロナ対策として、書面決議としている。	現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面で事故報告を含めた事業所の状況を報告する形で開催している。今後、感染状況により会議の実施方法を検討していくこととしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナ対策を含め、小規模事業所であるため、面会等を含めた対応を市町村に相談している。	村上市役所朝日支所内にある地域包括支援センター(市直営)とは日頃から連絡を取り合っている。9月の「世界アルツハイマー月間」に実施された「村上市オレンジプロジェクト(認知症への啓発活動)」にも参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて、身体拘束廃止、虐待防止について話し合いをしている。(理念の共有)	利用者の自由な行動を妨げないよう、出入り口は常に開放している。職員が利用者の思いを汲み取り行動を予測して対応できるよう努めている。センサーマットなどの機器の使用は必要最低限の期間に限定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、身体拘束廃止、虐待防止について話し合いをしている。(研修の実施)	職員研修の充実のために研修担当を選任して研修を実施している。事故対策、災害対策、感染対策、虐待・身体拘束廃止に関して担当職員を配置し、各担当が連携して研修会を実施し、研修会の実施を通じて職員の育成につながった。また、「虐待の芽チェックシート」で定期的に自己チェックを実施することで自己覚知に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村に制度について確認したり、パンフレット等で把握している。今後も継続的に研修会等に参加する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会禁止、中止になることが多く、要望等は電話にてうかがっている。	利用者、家族の希望を叶えるため、感染症対策を十分に行ないながら、直近では温泉への一泊旅行やコンサートへの外出を支援している。チラシを見た利用者の希望を取り入れ、移動スーパーに来てもらって買い物ができるようにした。利用者が中心となって作成した和雑貨を販売しており、その収益は利用者が希望する購入品や外出の費用に充てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務から情報収集を行い反映させている。コロナ感染症に不安あり、看護師によるゾーニング研修等の実施。代表者との面談する機会が少なく、今後改善するように上申している。	管理者は、日々の業務や職員会議の機会を利用して職員の意見や提案を聞き、運営に反映している。法人代表者と職員の面談もっており、今後、内容をフィードバックして運営に反映させる方向で検討している。	法人代表者と職員の面談については今後も継続されることが望まれる。代表者の事業運営への理解および職員からの運営に関する意見や提案の機会が進むことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件等整備するように意見交換の場をもうけるように上申している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者と職員個々で意見交換を増やし、職員の力量を把握してもらうよう上申している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ対策のため、おこなっていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスに慣れない利用者(初期段階)には、顔なじみになるように自宅への訪問回数を増やし対応している。(体験利用も実施)継続的に実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族から相談を受け、対応している。又、入居後も自宅への外出時等の注意点など、共有している。(新型コロナ対策も含め)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を把握し、場合によっては市町村へ連絡し、必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見つけ、実施して頂いている。(安全ボラ、環境美化活動、調理、清掃)		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関わりをしている中で、家族内でも意見が分かれることがあるが、中立の立場になり支援をするよう心掛けている。	家族との情報共有や意見交換にあたっては、事業所からの一方通行にならないよう心がけている。利用者の認知症の特性に起因して、家族間で話の内容が食い違ってしまったことがあり、その際は、家族内のキーパーソンに配慮しながらそれぞれの家族メンバーや知人への対応を丁寧に行った。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの関係については、新型コロナ対策をしながら、リモート面会、電話等をおこなっている。又、本人、家族の協力得て、コロナ禍でも感染対策に気をつけ、外出拍をおこなっている。	感染防止対策を取ったうえで、外出や外泊を支援したり、リモート面会、電話等による馴染みの方とのコミュニケーションの機会を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用される方は不安を抱えている。アセスメントを通して、入居前のスタイルを変えずに必要な部分での職員介入し利用者同士の関係性を築くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もふるさとのイベント等の情報提供をおこない、専門的なことは何でも相談できるような体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションから本人の希望等を聞き取り、ケアプランに反映させている。	「あなたの思い」のシートを活用し、アセスメントを行っている。直接シートに書いてもらったり、日頃のコミュニケーションの場面で話題を広げながら、思いや意向の聴取に努めている。聴取の際には利用者の表情の変化などを捉え、思いを受け止めるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、親せき等から情報を収集し、他、事業所を利用していたときの顔なじみの方との時間を大切にしている。	入居時に、担当していた居宅ケアマネージャーからこれまでの暮らしの情報を引継ぐとともに、本人、家族、親戚等からの情報収集を行っている。フェイスシートに記載して職員間で情報を共有して、日常の支援に反映させている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションから日頃の観察から把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る方は、本人から意向の確認をとり、家族からは情報収集し、カンファレンス等で情報共有しながら介護計画を作成している。	本人の思いや意向、家族からの情報や意見をふまえて介護計画を作成している。計画の実施状況は毎日チェックし、6ヶ月に1回、ケース会議で検討してモニタリング、計画の見直しを行っている。現在、記録類は手書きで行っているが令和3年12月からパソコンでの電子入力にシステムを変更する予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が記録しやすいような書式にて記入し、カンファレンス等で検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は、新型コロナ対策の為、外部活動を自粛している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前での地域の方が、連絡を取ってくれている。新型コロナであるため電話等で行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人のかかりつけ医との面談の機会を設け、情報共有をおこなっている。又突発的な体調不良には、往診対応の出来る協力医をお願いしている。	利用者のかかりつけ医、家族との受診状況を共有し、協力関係の構築・維持に努めている。突発的な発熱等の場合は、事業所の協力医から往診等で対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコール体制の整備や申し送り等で情報共有し利用者の安心に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各個人のかかりつけ医との面談の機会を設け、情報共有をおこなっている。又突発的な体調不良には、往診対応の出来る協力医をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族又はご本人を含め、終末について話し合い、当事業所で看取り対応を行っている。本人、家族の意向を大切にしている。	利用者の意向に沿った看取り対応を行っている。重度化や終末期に向けた対応については、入居時の説明、及び食事が摂れなくなるなどの状況変化時の説明を行い、同意書もらっている。本人・家族と事業所との信頼関係が構築されており、ほとんどの方が事業所での看取りを希望している。経管栄養に頼らず、自然な形で終末期を迎えられるよう支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAED操作訓練をおこなっている。職員会議等にて実際に起きた事故事例をあげて再発防止対策を共有している。	緊急時に備え、心肺蘇生、AED操作などの訓練を定期的に行っている。事故等が発生した場合は、職員会議等で対応職員からの説明・報告を行い、参加した職員間で、考えられる原因や再発防止策の協議・検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、新型コロナ対策のため、事業所内のみで実施。	令和3年度は新型コロナウイルス感染防止のため、外部の参加者は無しとして、事業所内での避難訓練を実施した。火災等を想定した訓練だけでなく、風雪害時の停電を想定したシミュレーション訓練も実施し、併せて懐中電灯、非常灯、反射ストーブなどの備品を調達した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議にて、人権、プライバシーの保護について確認作業をおこなっている。	「虐待の芽」チェックシートを使用し、利用者の尊厳を損ねるような対応がないか職員会議で検討している。これにより、トイレに行ったかどうかを問う職員間の会話を見直すこと、リビングの扉を閉めることによるトイレの目隠しを行うことや、定期的に話題として取り上げ職員の意識化を図ること等が検討された。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方については、声掛けしながらおこなっている。出来ない方に対しては、職員が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナ対策のため、一緒に出掛け買い物をするといった活動は自粛しているが、好みのものを聞いて、食のイベントを実施している。又、移動販売車を依頼し定期的に買い物をしている。	毎日ではないが、昼食の調理員を配置し、利用者が野菜の下処理などの食事の準備、後片付け等に参加できるように配慮している。朝食と夕食は職員が担当している。また、畑で採れた野菜を活用した食事作りが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看取りを含め、食事量の少ない方は、かかりつけ医と相談しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを促している。出来ない方については、職員が対応している。場合によっては、協力歯科医へ相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	左記のように対応している。	日中の排泄支援では、ほとんどの方をトイレ誘導し、職員2名により便座への移乗を行なう場面もある。夜間は尿取りパットやポータブルトイレの使用を行うなどし、安眠にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の何気ない活動を促し、体を動かし、予防に努めている。場合によっては、かかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日、入浴している。生活のリズムの中で入浴時間帯が決まってくる。今年にはコロナ禍であり、日帰り温泉は自粛している。	利用者一人ひとりの生活リズムに沿って大体の入浴時間が決まっており、毎日入浴できるよう準備をしている。浴室内に坪庭があり、露天風呂気分で開放的に入浴することができる。お湯は利用者ごとに張り替え、気持ち良く入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の望むようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の役割がありIADLを充実するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人散歩に出かける人もおり、行方不明とにならないよう対策をとっている。コロナ禍であり、人込みの多いところへの外出は避け、ドライブをメインにおこなっている。	新型コロナウイルス感染防止のため、少人数でのドライブを中心とした外出の支援を行っている。令和3年10月以降の新型コロナウイルスの収束時には、希望の合った利用者に対して温泉やコンサートへの外出を実施した。日常的にも、利用者が外へ出たい時にいつでも出かけられるよう見守りを行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々によって管理できる人には管理してもらい、管理が難しい人でも買いもの先で支払いをしてもらったり、外部とのやり取りをおこなってもらっている。(コロナ禍であり、買い物も自粛傾向)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各箇所にて工夫し、視野も楽しめる空間の提供。季節感を表現するために定期的にレイアウト変更等を行っている。	内装は高級旅館をイメージして工夫がされており、格子や竹をモチーフにして、各ユニットで特徴ある、居心地の良い空間づくりがされている。玄関付近のスペースを交流の場として活用しており、12月はクリスマスリースで季節感を採り入れていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所については、ご自由に決めてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での使い慣れたもの持参してもらい、少しでも安心できるしつらえを本人、家族等で検討してもらっている。	ベッドは事業所で用意しているが、それ以外は利用者一人ひとりの私物を持ち込んでもらっている。位牌を持ってきたり、写真を飾るなどその人らしい居室づくりがされている。認知症による収集行動がある利用者に対しては、清潔に配慮しながら限られたスペースを活用して支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内バリアフリーであるが、それを感じさせない工夫をしている。又、トイレだと分かるように工面している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				